

令和 6 年度 全国学力・学習状況調査の結果について

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

小学校第 6 学年の全児童、中学校第 3 学年の全生徒（悉皆調査）

3 教科に関する調査の内容

小学校：国語、算数

中学校：国語、数学

4 調査日時

令和 6 年 4 月 18 日（木）

5 調査結果（平均正答数・平均正答率）

	小学校		中学校	
	国語	算数	国語	数学
昭島市	9.3/14 問 67%	9.8/16 問 61%	8.4/15 問 56%	8.1/15 問 50%
東京都	9.8/14 問 70%	10.9/16 問 68%	9.1/15 問 61%	9.1/15 問 57%
全国	9.5/14 問 67.7%	10.1/16 問 63.4%	8.7/15 問 58.1%	8.4/15 問 52.5%

6 各教科に関する調査結果

(1) 小学校国語

【調査結果のポイント】

<正答率が高い問題>

【話すこと・聞くこと】

○目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討すること

(大問1一)【正答率：市 66.5% > 国 62.5%】

【書くこと】

○目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること

(大問2一(1))【正答率：市 81.6% > 国 80.3%】

<正答率が低い問題>

【話すこと・聞くこと】

▲資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること

(大問1二(2))【正答率：市 53.5% > 国 52.9%】

【書くこと】

▲目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること

(大問2二)【正答率：市 57.1% > 国 56.6%】

【読むこと】

▲人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること

(大問3三)【正答率：市 65.0% < 国 72.6%】

【指導改善のポイント】

【話すこと・聞くこと】

◎相手や目的を意識しながら、自分の考えが伝わるように表現を工夫するよう指導する。音声言語だけでは聞き手が理解しにくかったり、誤解を招きそうだったりする場合などに資料を使いながら話すことや、聞き手の興味・関心や情報量などを予想し、どのような資料を用意すればよいかを考える場面を設定する。

【書くこと】

◎文章を書く目的や意図に応じて伝えたいことを明確にし、客観的な事実を取り上げることで考えをより深めていくことができるようにする。取り上げた事実が、自分の考えを裏付けるものになっているかどうかを振り返り、事実と考えとの関係を明確にできるようにする。

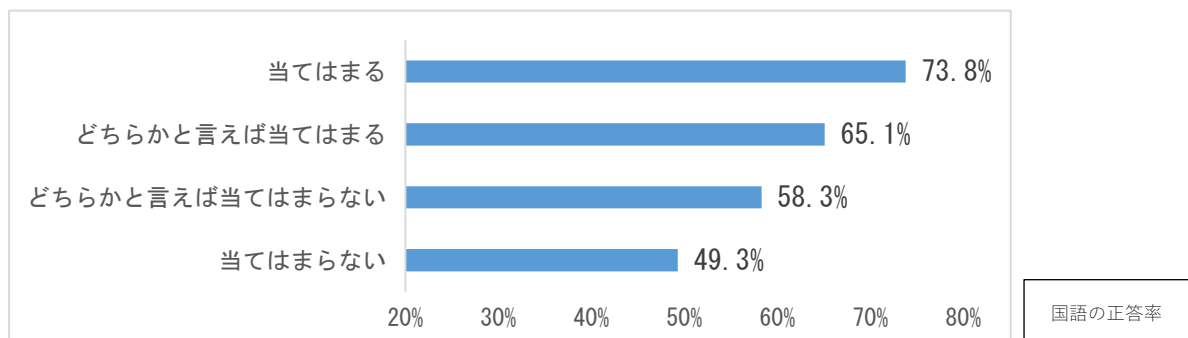
【読むこと】

◎それぞれの心に残ったところとその理由を意見交換することにより、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるようにする。友達が着目したところと自分が着目したところを比べることを通して、児童自身が「人物像」や「物語の全体像」、「表現の効果」のどの観点で読んだのかを明確にしていく。

<クロス集計>

児童質問紙調査

「国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように工夫して文章を書いていますか。」の質問に対する回答と、国語の正答率とのクロス集計



★この質問に肯定的に答えた児童の方が、国語の正答率が高い。自分の考えと理由や事例との関係を明確にしたり、事実と感想、意見とを区別して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫したりすることに関する指導の充実が重要であると考えられる。

(2) 小学校算数

【調査結果のポイント】

<正答率が高い問題>

【数と計算】

○数量の関係を□を用いた式に表す

（大問 1（2））【正答率：市 89.6% > 国 88.5%】

【図形】

○直方体の見取図について理解し、かくことができる

（大問 3（1））【正答率：市 83.3% < 国 85.5%】

【データの活用】

○円グラフの特徴を理解し、割合を読み取る

（大問 5（2））【正答率：市 78.7% < 国 80.8%】

<正答率が低い問題>

【数と計算】

▲問題場面の数量の関係を捉え、式に表す

（大問 1（1））【正答率：市 58.8% < 国 62.1%】

【図形】

▲球の直径の長さで立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表す

（大問 3（3））【正答率：市 31.3% < 国 36.5%】

【変化と関係】

▲道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる

（大問 4（3））【正答率：市 30.9% < 国 31.0%】

▲速さの意味について理解している

（大問 4（4））【正答率：市 48.1% < 国 54.1%】

【データの活用】

▲折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できる

（大問 5（3））【正答率：市 40.2% < 国 44.0%】

【指導改善のポイント】

【数と計算】

◎数量の関係をつかみにくい問題の解決において、図などを用いて、数量の関係を整理する。問題場面を図に表し、その図と問題文のそれぞれの数量の関係を比較し、捉えることができるようにする。

【図形】

◎図形を構成する要素に着目して、捉えた図形の意味や性質を基に、必要な情報を見だし問題を解決できるようにする。

【変化と関係】

◎道のりと時間が比例関係にあることに着目して、速さなど単位量当たりの大きさの意味及び表し方について理解できるようにする。

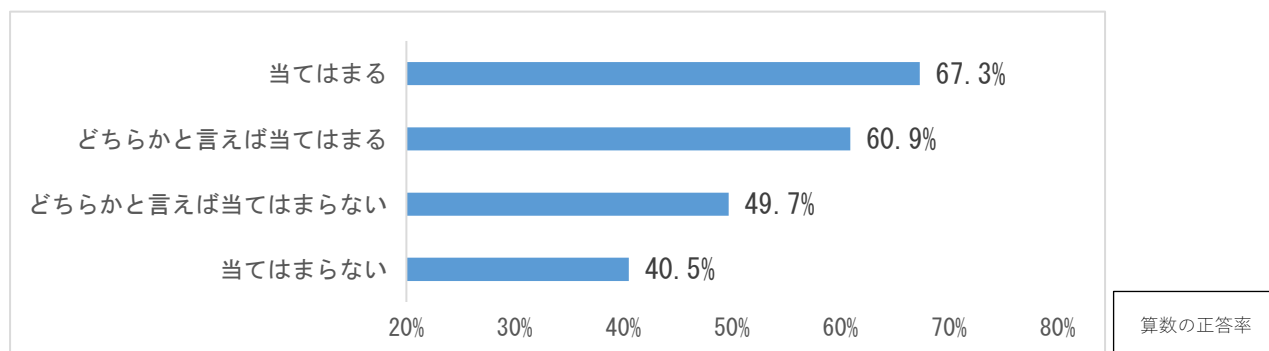
【データの活用】

◎日常生活の場面のデータをグラフに表し、そのグラフから特徴や傾向を捉え、見いだしたことを表現できるよう、グラフのどの部分を基に、必要な情報を読み取ったかを表現できるようにする。

<クロス集計>

児童質問紙調査

「算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」の質問に対する回答と、算数の正答率とのクロス集計



★この質問に肯定的に答えた児童の方が、算数の正答率が高い。問題の解き方が分からないときでも、自ら考えたり、友達の考えを聞いたりしながら、粘り強く取り組めるように指導の工夫をすることが大切である。

(3) 中学校国語

【調査結果のポイント】

＜正答率が高い問題＞

【書くこと】

○目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にする

(大問3一)【正答率：市 81.1% < 国 81.4%】

＜正答率が低い問題＞

【情報の取り扱いに関する事項】

▲意見と根拠など情報と情報との関係について理解している

(大問1三)【正答率：市 40.7% < 国 44.0%】

【話すこと・聞くこと】

▲話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができる

(大問1四)【正答率：市 44.0% < 国 44.7%】

【書くこと】

▲表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫する

(大問3四)【正答率：市 41.6% < 国 49.3%】

【読むこと】

▲目的に応じて必要な情報に着目して要約する

(大問2四)【正答率：市 39.3% < 国 42.6%】

【指導改善のポイント】

【情報の取り扱いに関する事項】

◎相手の考えを理解したり自分の思いや考えを表現したりするために、原因と結果、意見と根拠など、話や文章に含まれている情報と情報との関係について理解できるよう、意見とそれを支える根拠がどのように結び付いているかを捉えたり、整理したりすることができるように指導する。

【話すこと・聞くこと】

◎話合いの中で、話題を意識しながら経過を捉えて話したり聞いたりすることや、話し合いの展開に応じて、互いの発言を結び付け、話し合った内容を踏まえて自分の考えをまとめられるように指導する。

【書くこと】

◎自分が読み手に伝えたいことを明確にし、そのねらいに応じた表現の工夫ができているかを確認することができるように指導する。

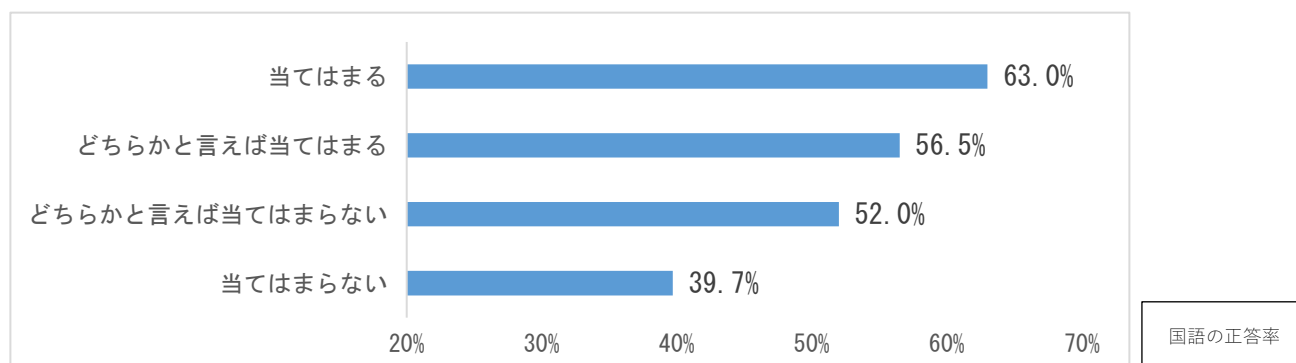
【読むこと】

◎要約は、概略を理解するために文章全体の内容を短くまとめたり、情報を他者に伝えるために必要な部分を取り出してまとめたりするなど、その目的や必要に応じて内容や分量、方法が異なる。要約する際には、目的を明確にすることが大切であり、要約したものが目的に沿っているかどうかを考え、必要な情報を正確に捉えて要約するよう指導する。

＜クロス集計＞

生徒質問紙調査

「国語の授業で、自分の考えが伝わるように、表現の効果を考えて文章を書いていますか」の質問に対する回答と、国語の正答率とのクロス集計



★この質問に肯定的に答えた生徒の方が、国語の正答率が高い。このことから、自分の考えが伝わる文章になるように、表現の効果を考えて描写を工夫して書けるように指導することが大切である。

(4) 中学校数学

【調査結果のポイント】

＜正答率が高い問題＞

【数と式】

○問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができる

(大問6(1))【正答率：市 81.5% > 国 80.5%】

【関数】

○二つのグラフにおける y 軸との交点について、事象に即して解釈する

(大問8(1))【正答率：市 81.8% < 国 83.4%】

【データの活用】

○与えられたデータから最頻値を求める

(大問7(1))【正答率：市 73.5% < 国 74.3%】

＜正答率が低い問題＞

【数と式】

▲目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明する

(大問6(2))【正答率：市 27.6% < 国 35.9%】

【図形】

▲ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明する

(大問9(1))【正答率：市 25.3% < 国 25.8%】

【関数】

▲事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する

(大問8(2))【正答率：市 15.5% < 国 17.1%】

【データの活用】

▲複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する

(大問7(2))【正答率：市 22.6% < 国 25.9%】

【指導改善のポイント】

【数と式】

◎事柄が一般的に成り立つ理由を、文字式や言葉を用いて根拠を明らかにして説明できるように指導する。

【図形】

◎証明の方針を立て、それに基づいて仮定から結論を導く推論の過程を数学的に表現できるように指導する。

【関数】

◎様々な問題を数学を用いて解決できるようにするために、問題解決の構想を立てたり、問題解決の過程や結果を振り返ったりする活動を取り入れ、数学を活用する方法を説明できるように指導する。

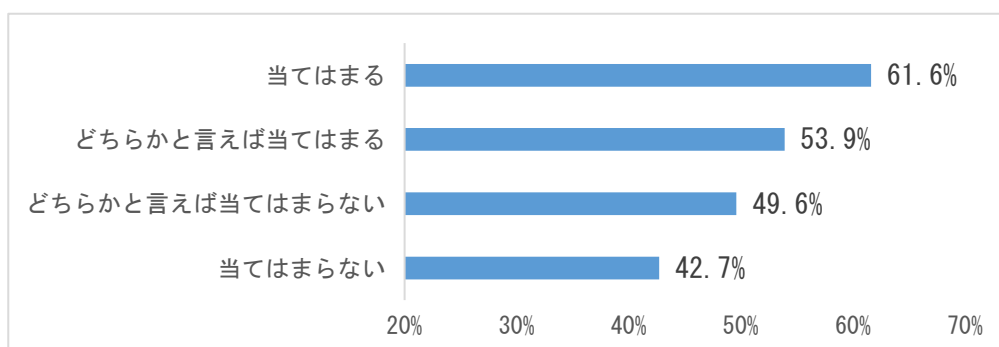
【データの活用】

◎データの分布の傾向を読み取って判断し、その理由を数学的な表現を用いて的確に説明できるように指導する。

＜クロス集計＞

都調査生徒調査

「数学の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしている」の質問に対する回答と、数学の正答率とのクロス集計



数学の正答率

★この質問に肯定的に答えた生徒の方が、数学も正答率が高い。表、式、グラフなどを用いて問題解決する場面を設定し、生徒が様々な視点で解き方を考えることができるように指導することが大切である。